

土砂災害（特別）警戒区域 町内の調査状況は…？

箇所数	警戒区域 (イエローゾーン)	特別警戒区域 (レッドゾーン)
がけ崩れ	977	939
土石流	102	85
地すべり	76	—

令和元年度末時点

人家戸数	対象箇所数	警戒区域 (イエローゾーン)	特別警戒区域 (レッドゾーン)
がけ崩れ	848	721	914
土石流	85	343	26
地すべり	46	1,084	—

平成30年度末時点

レッドゾーン内
戸数
940

※ レッドゾーンはイエローゾーンの中にあるという考えから、イエローゾーンの箇所数は、レッドゾーンを含んだ数になっています。
※ 現象ごとに集計しているため、同区域で、「がけ崩れ」ではレッド、「地すべり」ではイエローというように重複しているところがあります。
※ 人家戸数における数字は、途中経過のものです。対象箇所数は、イエローゾーン箇所数のうち集計が終わった数になります。

1,000カ所
を超える
危険区域

特に厳しい自然環境にある本町は、上表の箇所数で分かるように多くの場所がレッドゾーンやイエローゾーンに該当しています。
調査は、指定範囲イメージ（15ページ）の中で、集落や住宅が存在する付近を行っているため、実際は更に危険区域があると考えられます。

レッドゾーン内の人家戸数割合（県内）

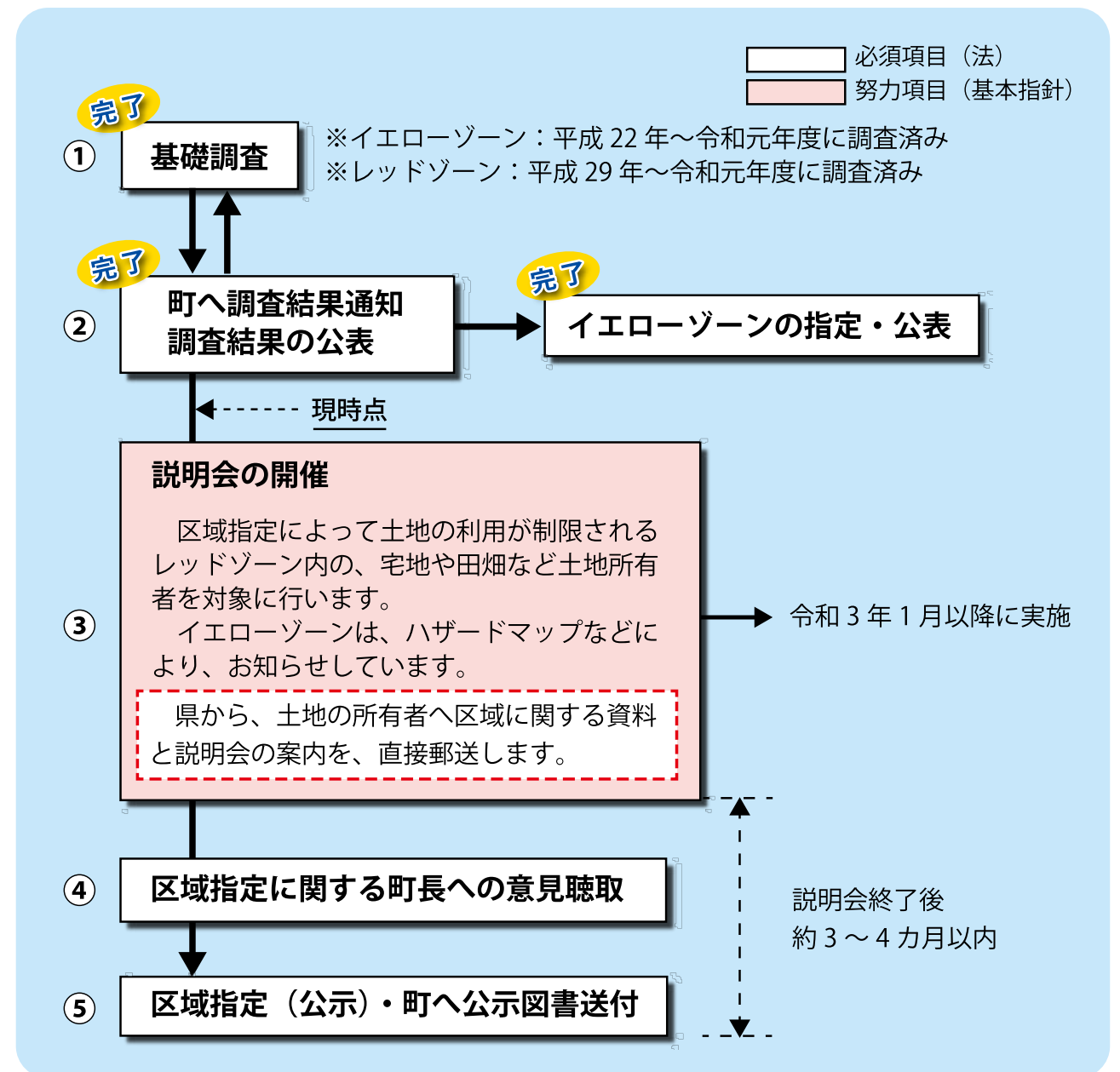
	総世帯数 ①	レッドゾーン内 人家戸数②	割合 ②／①
1 大豊町	2,036	940	46.2%
2 大川村	209	94	45.0%
3 仁淀川町	2,724	908	33.3%
4 津野町	2,271	673	29.6%
5 日高村	1,949	491	25.2%
⋮	⋮	⋮	⋮
34 高知市	152,075	2,223	1.5%

※ 平成27年国勢調査結果「住宅所有の関係別一般世帯数／持ち家世帯数」・土砂災害警戒区域調査における平成30年度末時点のレッド内人家戸数より（高知県作成）

レッド内の
人家戸数割合
県でワースト

区域内にある人家戸数は、現在も県で集計が進められていますが、本町の総世帯数のうち、レッドゾーン内人家戸数（平成30年度末時点）の割合は約5割で、危険な場所に住宅が存在する割合が県内で最も多い地域となっています。

土砂災害（特別）警戒区域 町内の指定への流れ



足かけ10年
の調査が完了

①～②については、イエローゾーンの調査から始まって約10年がかけられており、県から町へ定期的に調査結果の通知、再調査が行われてきました。今年5月、最終的に町へ通知された調査結果を基に、今後指定への段階を経ていきます。

レッドゾーン
指定に向け…

イエローゾーンはすでに指定済みで、ホームページでハザードマップを公開しています。レッドゾーンは、③～⑤の段階を踏む必要があるため、今後県が説明会を実施していきます。予定としては、令和3年1月以降に説明会を実施し、令和3年度上半期を目途に完了予定です。

④～⑤については、説明会後約3～4カ月以内に行い、令和3年度末までを目途として進めていきます。